山形県版「道路の走りやすさマップ」に関するアンケート調査結果について

（１）集計回答数

「山形県版走りやすさマップ（お試し版）」(平成１８年 ９ 月４日記者発表)は、一般向けに４，５００票とモニター向けに５００票を配布、その内一般向け６３５票(回収率１４.1%)、モニター向け２６４票（回収率５２.８%）が回収された。

集計は一般アンケートをベースとし、モニターアンケートと共通の質問は合算集計を行っている。

◆　回収状況

	配　布　数	回　収　数	回　収　率
一　　般	4,500	635	14.1%
モ　ニ　タ　ー	500	264	52.8%
合　　計	5,000	899	18.0%

（２）回答者の構成

回答者の性別構成は「男性」が約８割、「女性」が２割弱で男性からの回答が圧倒的に多い。また、回答者の年齢構成は、30 代～50 代」までで約８割を占め、それぞれの年代で２～３割となっており、「20 代、60 代以上」がやや少なめの約１割ずつの回答となった。

性別および年齢の構成を図１．１に示す。

回答者の居住地は、「村山地域」が最も多く 38%を占めた。次いで「庄内地域」の 37%、「置賜」「最上地域」からはともに約 10%の回答が寄せられた

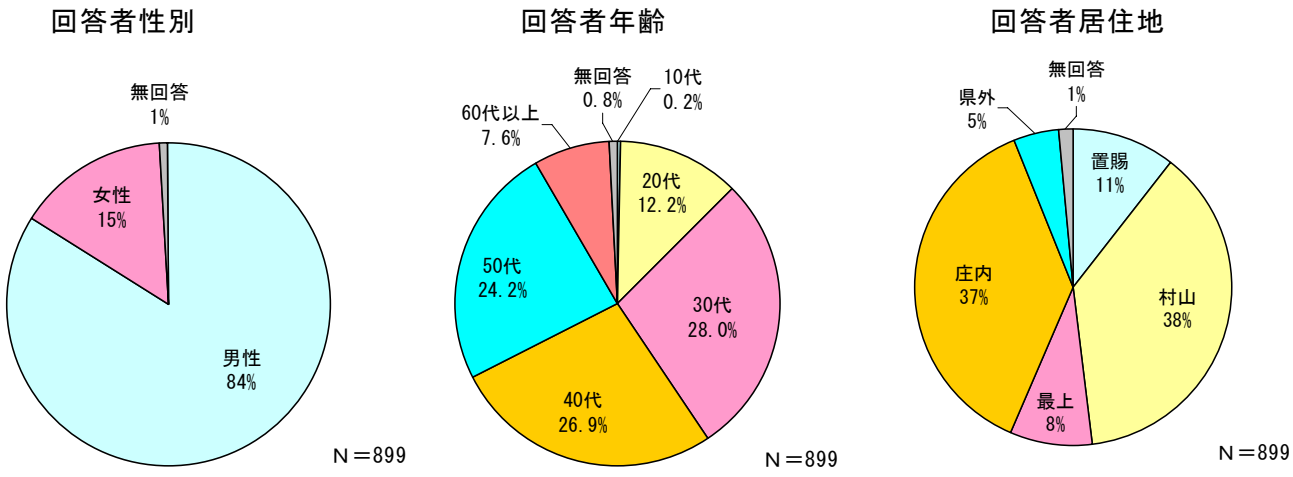
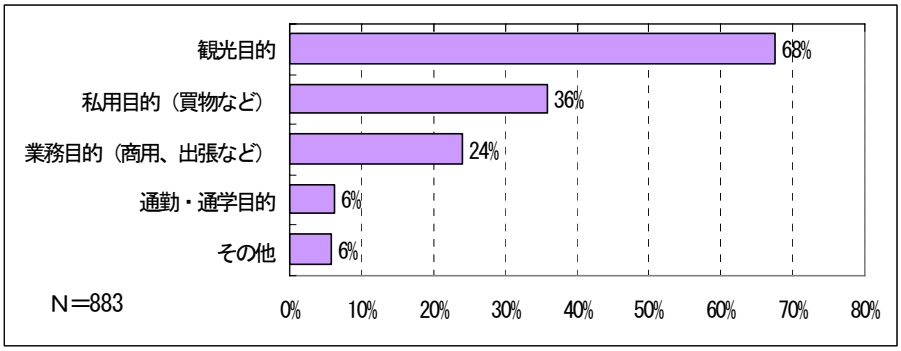


図１．１アンケート回答者の性別および年齢

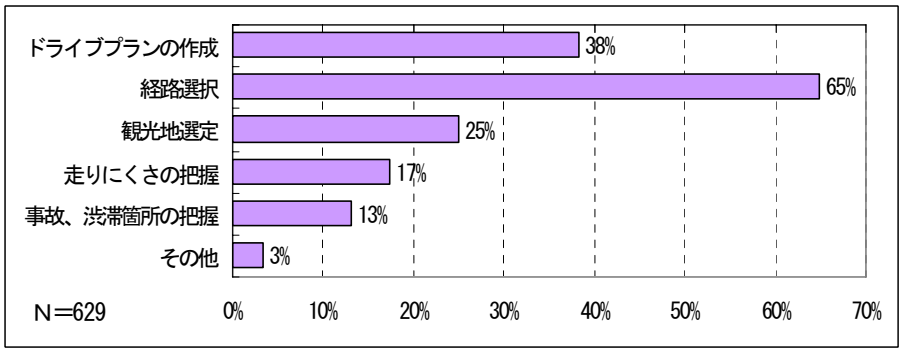
（３）山形版「走りやすさマップ」の利用目的について

「走りやすさマップ」の利用目的は、「観光」が 68％と最も多く、次いで「私用（買い物など）」が 36％、「業務（商用、出張など）」が 24％となっている。



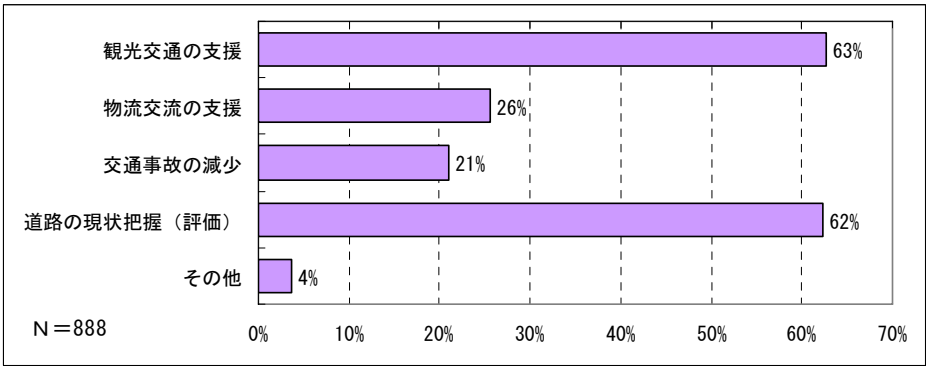
（４）山形版「走りやすさマップ」をどのような時に使うのかについて

「走りやすさマップ」の活用方法としては、「経路選択」が 65％と最も多く、次いで「ドライブプランの作成」が 38%となっている。走りやすい路線を選択したいというドライバーのニーズが現れている。



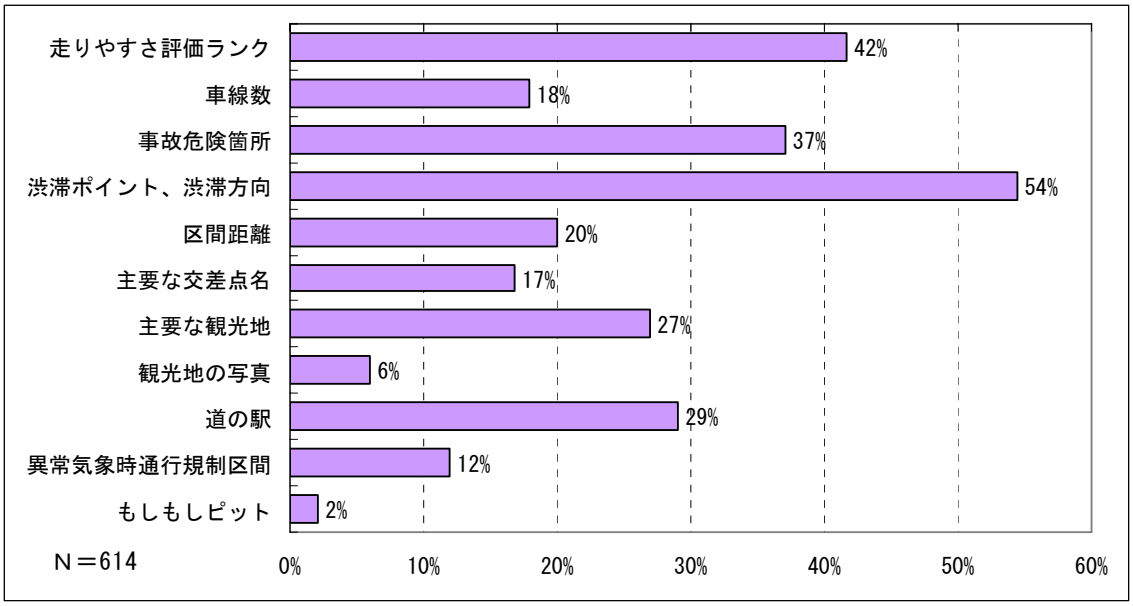
（５）山形版「走りやすさマップ」は何に役立つかについて

「走りやすさマップ」の効用としては、「観光交通の支援」が 63%、「道路の現状把握」が 62%と多く、次いで「物流交通の支援」（26％）、「交通事故の減少」（21％）の順となっている。



（６）「走りやすさマップ」の重要と思う情報項目について

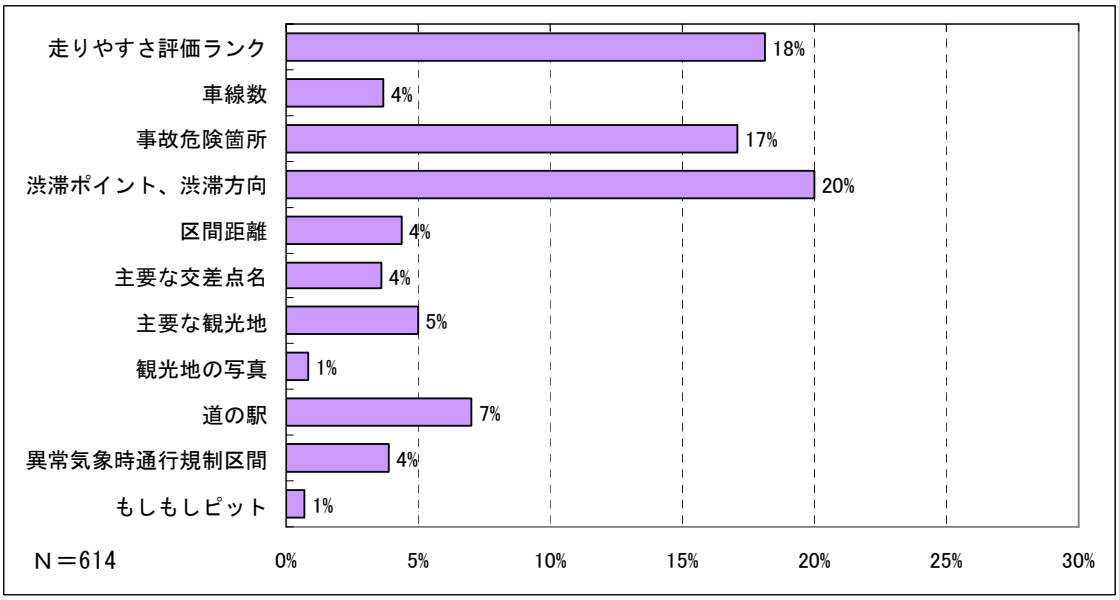
「走りやすさマップ」の情報項目として重要なのは、「渋滞ポイント・渋滞方向」が最も多く 54%、次いで「走りやすさ評価ランク」（42%）、「事故危険箇所」（37%）の順となっており、走りやすさに影響が大きいと考えられる渋滞や事故に対する情報が求められている。



※モニターアンケートを除く

特に重要な事項としても同様に、「渋滞ポイント・渋滞方向」（20%）、「走りやすさ評価ランク」（18%）、「事故危険箇所」（17%）の順となっている。

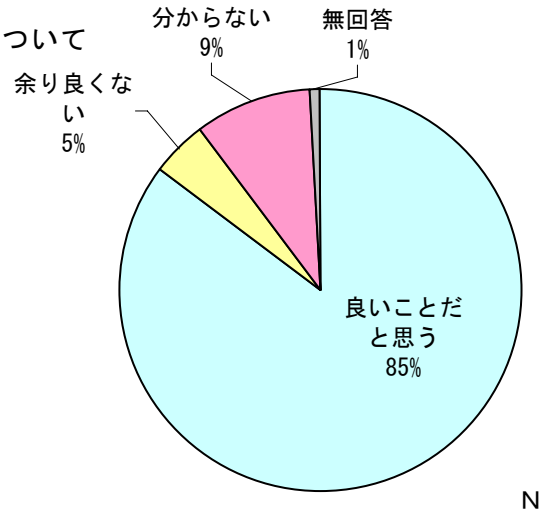
＜特に重要な項目＞



※モニターアンケートを除く

（７）山形版「走りやすさマップ」の取り組みについて

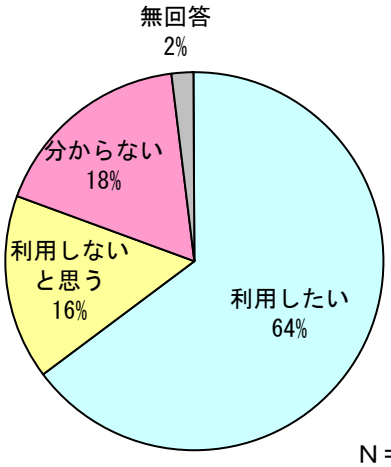
「走りやすさマップ」の提供に関しては、ほとんどの回答者が「良いこと」として評価している。



N＝899

（８）「走りやすさマップ」の今後のについて

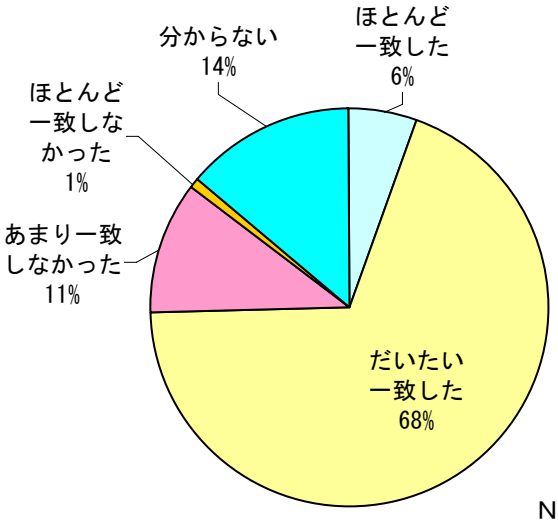
「走りやすさマップ」の今後の利用意向については、「利用したい」が 64%と約 6 割を占めたが、「利用しないと思う」が 16%となっている。



N＝899

（９）「走りやすさマップ」の実際走ったイメージについて

「走りやすさのイメージ」と「実走行との感覚」との対比については、「だいたい一致した」との回答が 68%を占めており、「ほとんど一致した」とする 6%を含め、約 7 割が走りやすさマップの整合性を確認している。



N＝682